

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 保健医療学部 リハビリテーション学科

作業療法学専攻

名 前 三川 年正

作成日 2023 年 9 月 4 日

1. 教育の責任

私が担当している科目は 精神障害作業療法学Ⅱ(各論)、作業分析学、地域作業療法学Ⅲ(精神障害)、作業技術学Ⅰ(レク・革細工)、作業療法特論Ⅱ(精神障害)になります。精神障害作業療法学Ⅱ(各論)は主に精神医学の復習をしながら作業療法の国家試験に沿った問題の対策、疾患別の作業療法を講義しております。これは将来国家試験対策や臨床に出た時の疾患別の作業療法の知識を得る意義があります。地域作業療法学では地域における精神科の作業療法士の役割を学ぶ機会となり、作業分析学は作業療法士の治療手段である作業分析について考える時間になっています。作業技術学は作業療法の治療手段である作業の手技を実際に学ぶ機会となっています。また作業療法特論という4年生の講義では国家試験対策を行いながら、最新の情報を学生に提供しています。

開講学年	科目名	授業概要
1年前	作業技術学Ⅰ(レク・革細工)	作業活動として実践場面で活用されている革細工を安全に行うための一連の作業工程を実際に経験し、講義及び作品を通して技法の基本を学ぶ。また、集団で行うレクリエーションの企画・運営を行うことで、コミュニケーション、集団の働きや役割、他者との協働を経験し、その役割を学ぶ。
3年前	精神障害作業療法学Ⅱ(各論)	精神障害作業療法学Ⅰ(総論)で学んだ知識をもとに、対象者に対する疾患別・障害別の評価や治療技法について演習や実技を通して、その知識・技能を深める。
3年前	作業分析学	同じ作業活動を行う場合でも動作や行動が変化し、その変化が身体・運動学的に与える影響・効果と心理・精神的に与える影響・効果を分析し理解することで、目的とする効果を確実に達成させる技術を学習し理解し応用できるようになる。
3年後	地域作業療法学Ⅲ(精神障害)	精神科領域における地域リハビリテーションを学び、他職種との連携、作業療法の役割を理解する。 地域生活支援を行うにあたっての法制度や環境整備を理解し、作業療法士としての支援を学ぶ。
4年後	作業療法特論Ⅱ(精神障害)	精神疾患について、一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、精神障害領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

教育に対する理念ですが、グループの理念でもあります「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」というものを大切にしております。学生にもこの理念を伝えられるように、将来学生自身が担当する患者様に対して、人として対応するというを常に伝えております。そして一人一人を大切にすることを学生に伝えることを期待して講義を実施しております。また命を尊びですが、リハビリテーションの職種は対象となる方も命を一つ一つ大事にするということも、学生には学んでもらいたいと考えております。そして個を敬愛するということですが、作業療法は集団で行うことが多い治療でもありますが、その中でも集団の中の一人というわけではなく、集団とは、一人一人が構成するという考えのもとに成り立っていることを理解していくよう、学生に指導しております。このような理念をもとにした私の教員としての特徴ですが、やはり一人一人の患者様を大事にしなが、その人の個性や命を大事にし、個別に対応していくことの重要性を伝えていくことが私の講義の一テーマになっております。

2) 理念をもつに至った背景

このような理念を考えるに至ったのは、やはりこのふれあいグループに入り、この理念を教えていただくことによるところが大きいと思われま。人を尊ぶということは当たり前のことですが、普段の生活や医療現場では日々の業務に忙殺されてしまい、なかなか対応できないところであると思われま。けれども、我々が忘れてはいけないところではありますので、この理念を念頭に置くことが必要だと思っております。また命を尊ぶについて、高齢者の増加ということもあり、一人一人の命が軽く扱われてしまうことがメディアとかでは見られるような印象があります。けれども、患者様一人一人にはその患者様のことを大事に思っている家族、友人が必ずいるという意識を持って、その命を大切にするために我々はリハビリテーションというところに関わっていくということが必要だと思っております。また、個を敬愛すですが、どうしても我々リハビリテーションというところでは、個人ではなく疾患であったり病気であったり怪我であったりに目が行ってしまいま。けれども、病気を持った個人という考え方が重要だと思っておりますので、この個を敬愛するという気持ちを常に持ち、日々患者様に対応していく作業療法士を育てられるようにしていきたいと思っております。私自身も学生を大事に思うことで、その対応から学生に伝わっていくようにしていければ良いかと日々思っておりま。

3. 教育の方法・戦略

1) 前提としての講義は概略の説明

私が行っている教育の方法ですが、まず、講義は導入の大前提として必要と思っております。知識を増やす工程として、講義を受講することは、方法としても導入としても有効と思われま。しかし、ただ話を聞いているだけでは学生はなかなか理解しにくい傾向があります。そして、理解度を測る試験においても、記憶ができていない状況もみられま。そこで、まず講義

の目的として、概要や全体像のようなものをつかんでもらうことを目的に、基本的なところを中心に講義では伝えております。つまり、地図でいうところの向かうべき所への概要を示し、その途中で分かれ道のような把握しなければならないところを細かく伝えていく流れです。

2)実技は反復練習

その後の理解を進めるために、学生には実習を中心とした内容を実施しています。リハビリテーションでは患者様をいかに観察するか、いかに面接するかが非常に重要になっております。まず学生同士での実施で、面接や観察を反復練習することにより、その方法や視点、聞くべき内容を学ぶように進行しております。精神疾患に対するリハビリテーションは病ではありませんが、その人の生活に対して対応していくことが多い仕事になります。ですので、一人一人に異なった個別的な対応が必要になります。教科書自体も本によっては微妙に異なる内容が記載されていたりしますので、その部分は、資料を作成して学生に理解を促すようにしています。講義では教科書だけでは理解しづらい、分かりづらい箇所については資料を作成・配布することで補足しています。

3)試験は理解度を測る手段

試験ですが、私の講義はまず話す、聞く、授業が中心になりますが、その内容は聞く授業では大まかな概略の全体像を理解してもらい、その後観察や面接などその対象となる患者様を理解するための方法を反復の実習を通して経験していくこと流れとなっております。そのため、覚える箇所を伝えており、そこを理解できているかどうかが試験の内容になります。また、国家試験対策に対しては、実際の問題を提示してその問題の解き方を講義した後に実際どのように解いていくか、という流れですので、山本五十六の名言のように、やってみせ、言って聞かせさせて、をかなり意識しております。褒めるというより、学生の成果に対しての適切なフィードバックをすることにより、成長につながっているように思えます。

4. 学習成果

授業アンケートでは、昨年より今年の方が概ね良好であり、また全体平均よりも高い結果となっております。また、以前のことですが自分の教育についての研究発表したことがあります。そのことについても論文を発表しております。国家試験の成績下位グループの対策であったり、下位学年における成績低下傾向者を対策について、発表しております。

試験の時には学生に自由記載によるアンケートを行っておりますが、それは答案用紙なので、結果的に記名式になってしまい、学生が書ける内容は限られているものです。そのアンケートの結果は、授業内容や話す内容については、面白いそして授業の工夫についても非常に高い評価をもらっている印象があります。

5. 改善のための努力

学生のアンケートや自由記載ではそれほど書かれていないのですが、自分の話し方に抑揚がないとの自己評価があります。また早口な部分もありますので、そこは改善するようにしていきます。また、授業の資料を作成する時においても、それほど国家試験や臨床に関係ない内容は端折っているところがあります。しかし、そのようなところに後日質問に来る学生も多くいるので、そこは改善していきたいと思っております。

6. 今後の目標

今後はかなり話し方をまず改善していくこと、そして授業については実習や国家試験に対して非常に重要となる部分を資料などで補足しながら講義していくことが必要だと思われれます。そして、話し方についてはできる限りゆっくり話すようにし、後期の講義の際にはそこを注意し、自分でも満足いくレベルになるまで、抑揚を持ってゆっくり話しながら学生の理解を深めるために努力していきたいと思っております。

【添付資料】

資料1 成績対策グループにおける学生の反応の質的調査